

日頃からまちづくり工房「しお風」の活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。「しお風」の夢は、「住民が主役の共育のまちづくり」、住民が活動し、共感し合い、成長することで、住民が輝き、その輝きが町の個性、町の輝きをつくるまちづくり。つまり、ひとつの住民自治を目指しています。

現在、世界や日本の国政を見ても、不穏であり、コロナの感染拡大でますます不安は増すばかりです。そんな中で健全、安心な日々を送るためには住民自治が重要であると思っています。

このような「しお風」の活動の一つに地域ブランドづくり「湘南♡風と星物語」があります。

昔から培われてきた二宮の生活文化やアカデミックな風土を失うことなく、二宮らしさを追及し、忘れられている地域資源を掘り起こす活動です。

来町者が地元二宮の人たちとふれあいながら、「しお風」独自の「walkwalk(ワクワク)マップ」とガイドブックを用い、「walkwalk(ワクワク)地域探検ツアー」という町歩きを湘南邸園文化祭の事業として2008年から毎年実施してきました。

資料1、2に記載したとおり、国や県でも固有の魅力を持つ文化財の保存と活用は主要な政策の一つで、協働により新たな文化発信の場、その魅力に基づいて多彩な交流の場として保全活用し、地域の活性化につなげようとしています。この流れの中で実施し、「しお風」も微弱ではありますが、成果をあげています。

そして、地域コミュニケーション紙「しお風」が創刊20年を迎え、今年5月末にこれまでの活動の集大成としての二宮のまち歩きの案内冊子を刊行いたしました。

議員のみなさまにも配らせていただきましたが、タウンニュースや読売新聞に掲載され、大きな反響を得ました。

この冊子の中で「しお風」は二宮の魅力が、二宮の特異な大地の成り立ちに起因し、青い空のもと里山、海、川があり、一日で歩いて巡ることができる小さな町、その生活文化や季節を感じる風景が残っている都会に近い田舎町、アカデミックな風土にあると考え、そのキーワードとして、みかんと愛を使って、物語性を醸し出す二宮の魅力を伝えています。

その中心は近代建築物です。1902(明治35)年に二宮駅が開設、1906(明治39)年に湘南馬車鉄道株式会社が営業を開始し、1913(大正2)年8月の横浜貿易新報に掲載されたように著名人の別荘が、この町にも見られるようになっています。

近代数寄屋を大成し、文化勲章も受賞した吉田五十八の最高傑作と言われ、世界的20世紀名作住宅である自邸「旧吉田五十八邸」。

美人画で一世を風靡した山川秀峰が「どうせ海岸の町に住むのなら、海の一番よく見えるところにしよう」と思った別荘で、吉田五十八が設計した「旧山川秀峰・方夫邸」。戦後の新しい文学の先駆者、夭折した天才と言われている息子の山川方夫が住み、その文学に大きな影響を与えました。初めて訪ねた時の印象を「大磯の平坦な海岸に成れた私には、それは、思いもよらぬ位置からの眺望だった。」とその驚きを記しています。

北口通りにある銅板葺寄棟平入で日本国旗の風見のある看板建築の「吉田屋」、同じく看板建築の「タケイチ時計店」。

渡辺落花生加工場、明治期のレンガ塀やレンガ煙突などがある宮戸醤油醸造所の産業遺産。

東大二宮果樹園跡地の果樹園と一体となった大正、昭和初期の建築物が10棟以上ある稀で貴重な近代建築物群(3棟は東京帝国大学総長も務め、文化勲章も授与された内田祥三が監修したと推定されます)。

日本・東洋古建築を学問的に体系づけた最初の人で国宝保存会委員として文化財の保存に尽力し、文化勲章も受賞している伊東忠太が設計した「吾妻神社の社殿」など。

これらの近代建築物は、先人が二宮の特異な大地の成り立ち、歴史、景観などに魅力を感じ、それらを活かした建物をつくり、75年以上の年月が経った現在まで継承されてきました。そして、この魅力は継承してきた住民の力、愛であると感じています。それは、湘南の残したい資産だとも考え、旧山川邸は湘南遺産に手上げし、選定されました。

このようなことも含めて、二宮の魅力として、来町者から好評を得ております。

また、邸の持ち主であった吉田五十八や山川方夫は東京に仕事を持ち、生活は自然が身近な場所でゆったりとした時を過ごし、湘南電車で通勤する中で構想を練るといいうライフスタイル「湘南スタイル」という生活様式を築いた祖とも言われ、近年再注目されています。

しかし、これらの近代建築物の老朽化はひどく、多くの住民は存在さえも知らない状況です。このままでは近い将来、これらの建築物は消失、存在したことさえも埋もれてしまう危機感を持っております。

これら先人が二宮の魅力に気づき、愛した遺産を今だからこそ私たちの暮らしにも活かし、二宮の魅力づくりに位置づけ、未来に伝えたいと思い、「忘れられた豊かさ探し『ふれ愛遊学探訪』」を開始しようとしています。また、二宮町は消滅可能性都市で、コロナウイルスの感染拡大の中で、将来自治体経営は危機的な状況に陥る懸念もあります。その中で生き残るには、定住人口だけでなく、近年重要視されている地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待される関係人口も増やす「居たいと思わせる個性的な自律した自治体」だと考えています。

近代建築物を活用したまちの魅力づくりは、藤沢市や大磯町なども積極的に取り組んでいます。大地の成り立ちの違いや官の力が強い大磯とは違う、教育、生活文化という民の力を前面に出した二宮らしい魅力づくりができるように思います。

近代建築物を活用した二宮の魅力づくりを町と住民が協働で行うことで、二宮のイメージアップになり、住民の郷土愛や町外の二宮ファンを増やし、町の活性化、定住促進にも貢献すると思います。

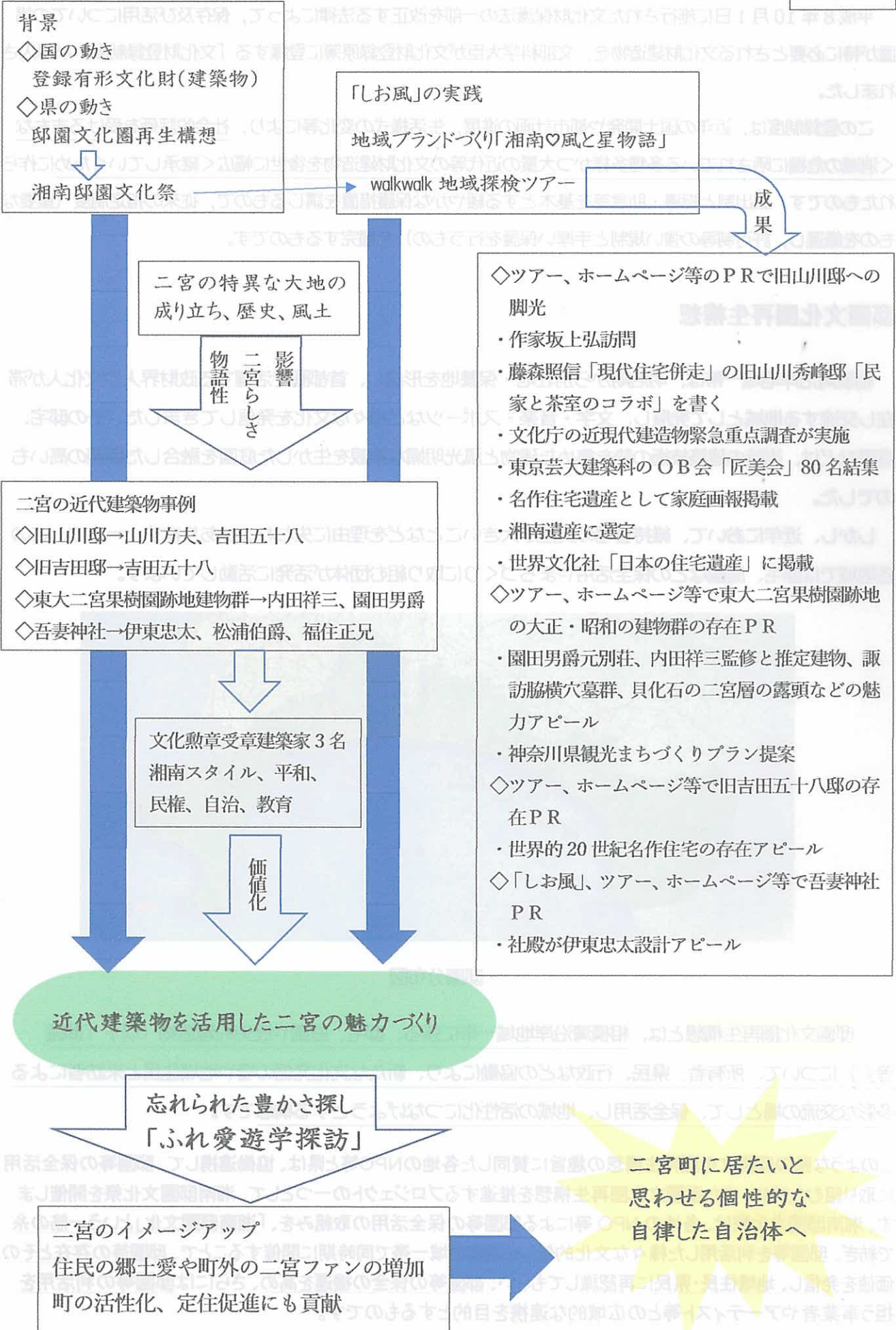
「こんな時だからこそ、愛する二宮の魅力をきちんと掘り起し、伝えなくてはいけない」「『お風』の夢である住民が主役の共育のまちづくりを具現化する歩みを止めることなく続けることが二宮の希望や誇りにつながる」と考え、次の項目を陳情いたします。

【陳情項目】

1. 二宮町内の近代建築物の現況調査(建築年、所有者、現在の状態等)を求めます。
2. 近代建築物を活用した二宮の魅力づくりとなる二宮らしい湘南スタイルをアピールするイメージ戦略を求めます。
3. 邸園文化圏再生構想事業としての位置付けを神奈川県に働きかけることを求めます。

以上

陳情の背景や今後の展開



平成 8 年 10 月 1 日に施行された文化財保護法の一部を改正する法律によって、保存及び活用についての措置が特に必要とされる文化財建造物を、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録する「文化財登録制度」が導入されました。

この登録制度は、近年の国土開発や都市計画の進展、生活様式の変化等により、社会的評価を受けるまもなく消滅の危機に晒されている多種多様かつ大量の近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していくために作られたものです。届出制と指導・助言等を基本とする緩やかな保護措置を講じるもので、従来の指定制度（重要なものを厳選し、許可制等の強い規制と手厚い保護を行うもの）を補完するものです。

邸園文化圏再生構想

相模湾沿岸地域一帯は、明治期から別荘地・保養地を形成し、首都圏で活躍する政財界人や文化人が滞在し交流する地域として発展し、文学・音楽・スポーツなど様々な文化を発信してきました。その邸宅、庭園などは、当時の建築技術の粋を集めた建物と風光明媚な景観を生かした庭園を融合した価値の高いものでした。

しかし、近年において、維持管理の負担が大きいことなどを理由に失われつつあります。一方で、この各地域では邸宅、庭園などの保全活用やまちづくりに取り組む団体が活発に活動しています。



邸園分布図

邸園文化圏再生構想とは、相模湾沿岸地域一帯に残る、邸宅、庭園や歴史的建造物（以下「邸園等」）について、所有者、県民、行政などの協働により、新たな文化発信の場や地域住民と来訪者による多彩な交流の場として、保全活用し、地域の活性化につなげようとする構想です。

このような県の邸園文化圏再生構想の趣旨に賛同した各地のNPO等と県は、協働連携して、邸園等の保全活用に取り組むために、また邸園文化圏再生構想を推進するプロジェクトの一つとして、湘南邸園文化祭を開催します。**湘南邸園文化祭**は、各地のNPO等による邸園等の保全活用の取組みを、「湘南邸園文化」という一筋の糸で紡ぎ、邸園等を利活用した様々な文化的催しを湘南地域一帯で同時期に開催することで、邸園等の存在とその価値を発信し、地域住民・県民に再認識してもらい、邸園等の保全の機運を高め、さらには邸園等の利活用を担う事業者やアーティスト等との広域的な連携を目的とするものです。